捏造

改ざん

盗用

2000年

02

14

に「論文の数を稼ぎたい 気持ちがあり(写真に写

論文の撤回監視を通じ

を捏造したと認定した。

トップも辞任

亀田氏は産総研の調査

を懲戒解雇したと発表し

の記載が不十分で、試料

の多くも廃棄していた。

日本の研究不正減らず

複数の学術誌などに同じ

ふさわしくない人を著者に

論文を投稿する

加えるなどする

二重投稿

スポーツ庁

亀田直弘上級主任研究員 24年7月、42本の論文で 捏造や改ざんを認定した 間を騒がせた2014年の「STAP細胞」騒動から10年が経過した。 名科学誌から「研究不正大国」と批判された汚名を返上できるのか。 などの悪質な不正が見つかる事例は減らず、 産業技術総合研究所は 科学への信頼を損ねる研究不正が後を絶たない。日本で捏造(ねつぞう) る物体の大きさを示す) 実験データを記すノー どをした」と証言した。 スケールバーの改ざんな 増えたとする分析もある。 て研究不正を探るサイト は10月上旬時点で13本の ッチ」によると、亀田氏 リトラクション・ウオ 著 世

S T A

P

細胞

論文を撤回した。 していない実験のデータ 9月には自治医科大学 同大の准教授が実施

対応を検討している。 いた研究者が辞任に追い 学内の賞罰委員会などで 大学のトップを務めて

(E)

あらゆる細胞に育つ能力 どに刺激を与えるだけで チャーに、皮膚の細胞な 関も事実確認の重要性を 再認識した。 誌として知られる英ネイ 所などが世界有数の科学 14年1月、理化学研究

を持つSTAP細胞を作 は大学や研究機関に研究 辞任に追い込まれた。 この騒動を契機に、

計すると、10年代前半に

10件前後だった捏造、

学史を汚す騒動に発展 ったはずだった。報道機 正を起こさないと胸に誓 学術界の関係者は不 などの疑義が生じた。 文の画像を切り貼りした 究者は懲戒解雇相当の処 造を認定した。 研は同年12月、 だが、 研究を主導した若手研 発表直後から論 データ捏

著名な研究者は自殺し 分を受け、 当時の理研理事長は 指導役だった

を集めた。 うになった。

認定されて、

辞任した。

細胞問題が、日本の科

10年前に起きたSTA

創薬に使えるとして注目

付け、件数を公表するよ

織を治療する再生医療や

傷付いた臓器や組

針を改訂した。

データの

捏造、改ざん、盗用を悪

質な特定不正行為と位置

る研究者らが論文を捏 究所は14年12月、所属す 京大学分子細胞生物学研

投与した臨床研究を中止

の肺がん患者に治療薬を

大阪大などが約160人

年、研究不正に対する指

や図表を無断で別の論文 身の論文に掲載した文章

> 山中伸弥教授が開発した 賞を受賞した京都大学の

に載せる二重投稿などが

23年7月に会津大学の当 込まれる事態も起きた。

ったと発表した。

ノーベル生理学・

どの対策を求めるように

倫理の教育や不正防止な

なった。文部科学省は14

ベルの研究所の刷新につ

14年には、国内トップレ

にわたる。税金などを投

研究不正の弊害は多岐

1/1

人した研究費が無駄にな

STAP騒動が起きた

ながる問題も起きた。東

るうえ、時には医療にも

悪影響を与える。21年に

ができるなど指針が浸透 横ばいが続く。担当者は と、明らかになった特定 不正行為は年10件前後で してきた」と読み解く。 大学に不正告発の窓口 文科省のまとめによる 有識者の見方は異な

大学の資料などを基に集 茶の水女子大学名誉教授 る。研究不正に詳しいお の白楽ロックビル氏が各 画像の無断転用といった 研究所は改組された。 と、過半が捏造や盗用、 について理由を分析する 医療に弊害

回された約6万本の論文 に1960年代以降に撤 クション・ウオッチで主 本だけではない。リトラ 研究不正に悩むのは日

研究力への悪影響は避け 的な地位の低下が続くな と患者に謝罪した。 か、不正がまかり通れば 科学研究で日本の国際

研究に参加しなければ、 んが見つかった。 台併症が発症しなかった 大阪大は23年に「臨床

造、改ざんした事案の報 告書をまとめた。さらに 同 した。論文で捏造や改ざ

17年にも不正が起き、

られない。研究不正はな せ減らないのか。 可能性は否定できない」

以内に日本人が5人、 よると論文撤回数の10位 ラクション・ウオッチに 不正に絡む内容だった。 なかでも、日本への視線 世界で不正がはびこる 「日本人の不正行為が リト 30 ける必要があり、圧力に かっても処分が甘い。不 さらされた一部の研究者 正をして論文を書けば得 覚する確率が低く、見つ するために論文を書き続 をする」と指摘する。 他にも研究資金を獲得 白楽氏は「日本では発

まりしていると分析す も研究不正の件数は高止

飲内に了人いる。

が不正に手を染めるとい

日楽氏は学術論文の問

を超え、21年に45件に達 ざんや盗用は14年に20件

はとりわけ厳しい。

白楽氏は22年以降

▶韓国の黄禹錫・元ソウル大学教授がヒトクローン胚からES細胞を作ったと発表。 04 後に論文を撤回 13 ▶高血圧症治療薬「ディオバン」の臨床研究のデータ改ざんが問題に

(注)特定不正行為は文部科学省が指針で定義した特に悪質な研究不正

研究不正に関わる主なできごと

考古学研究家の藤村新一氏が石器の発掘を捏造した問題が発覚

研究不正の主な種類

特定不正行為

存在しないデータや研究結果を

研究で得たデータや結果を

正しくないものに加工する

了解や表示なしで流用する

他の研究者のアイデアやデータを、

▶米ベル研究所で超電導の研究不正が発覚

作り上げる

▶ STAP細胞騒動

記者会見する理化学 研究所調查委員会

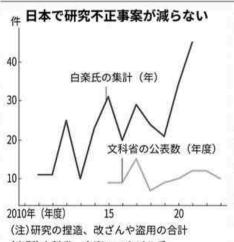
▶ 文部科学省が研究不正に対応する指針を

▶東京大学分子細胞生物学研究所の研究不正に対する報告書がまとまる

21 ▶大阪大学などが肺がん患者に治療薬を投与する臨床研究を中止

▶米ロチェスター大学が同大の研究者による超電導の研究不正を認定

(注)太字は日本のできごと



(出所)文科省、白楽ロックビル氏

件に含まれないものもあ を指摘した論文を調査し ア」などが捏造や改ざん しきた。文科省の公表案 きで、

題点を研究者らが匿名で 議論するサイト「パブピ 多い理由は何か」。 学誌サイエンスは18年の ている」と分析

本人は研究者を信頼しが 記事でこう指摘した。「日 しい規則は不要だと思っ 不正を監視する厳 声も多い。 出し続ける必要性に迫ら れたことも一因だとする のポストが増え、成果を つ指摘がある。任期付き

改善も検討する必要があ や組織の設置など制度の る。研究者の倫理意識の 氷山の一角で、多くが成 を監視する専門家の育成 実から遠ざかる恐れもあ なる。そのうえで、不正 る。科学研究の営みが真 になっている可能性があ 果として認められたまま 用が不正防止の大前提と 回上など学術界の自浄作

明らかになった不正は

https://www.nikkei.com/paper-viewer